

チャンキング学習法の応用:文法とナビゲーター

はじめに

文法のない言語はない。。そして、当然のこととして、文法力なくして英語力はない。筆者は、いろいろな場面でこのことを強調しているが、「学校現場では、文法指導をしっかりしているが、やはりそれは必要なことなんですよ」というコメントを口にする教師が多い。それに対して、筆者は、大切なのは「文法」という言葉で何を指しているか、「文法指導」という言葉でどういう活動を指しているということであると応答するようにしている。

まず、「英文法」の定本というものは存在しない。学校では、学習参考書としていろいろな「英文法書」が使われ、それが教師の、そして生徒の「文法」観を構成する基盤になっている。しかし、文法を専門的に研究する言語学の分野で、文法とは何かについて異なる見方があるように、学校で指導する文法の内容もそのあり方も「所与」ではない。指導する教師が自らの文法観をしっかりもち、文法指導の目標を設定しなければならない、と筆者は思う。

文法は表現のためにある。安井稔氏のコトバを借りれば、どの英文を取り上げても、「文法の血」が流れていない文はない。文法力とは、文を自在に作り出すことのできる力のことである。その意味において、英文法は必然的に表現英文法でなければならない。

ここで「文法知識」と「文法力」を区別しておかなければならない。「不定詞」「関係代名詞」「比較級」などの文法の部品について周知していても、それが文法力を保証するものではない。文法問題を解くことが文法力ではない。文法力とは「問題を解く」ためのものではなく、表現として文を作り出すため使うものである。自分の作った英文を自己編集 (self-edit) するために使うものである。

そして、文法は部品ではなく体系である。これまで学習英文法は、英語の部品をリストし、それぞれについて詳細な説明を加えてきた。しかし、すべての部品を組み立てるとどういう文法の全体像が見えるかは示されてこなかった。ゆるやかな分類 (不定詞や動名詞を「準動詞」と呼ぶなど) は示されたが、全体の見取り図は得られなかった。体系が示されてこなかったということである。そこで、「今は、不定詞を勉強しているが、文法の構図の中でどこに位置するかはわからない」ということが起こる。文法学習の目標が見えないということと同時に、今の「立ち位置」がわからないということでもある。これでは文法力はなかなか身につかない。

文法の全体像をどう示すか。文法は世界について表現するための何かである。世界は、モノの集合としてモノ的世界、モノとモノが関係したコト的世界、そして、コトを取り巻く状

況的世界に切り分けることができる。そして、モノ的世界、コト的世界、そして状況的世界を語るために、それぞれ名詞の文法、動詞の文法、そして副詞の文法がある。名詞の文法はモノとしての世界を名詞チャンクとして表現するためのものであり、動詞の文法はコトとしての世界を動詞チャンクとして表現するためのものである。そして、副詞の文法は「時」「場所」「方法」「理由」「頻度」などの状況的世界を副詞チャンクとして表現するためのものである。してみると、表現英文法は名詞チャンク、動詞チャンク、副詞チャンクの作り方に関する規則の集合ということになる。と同時に、表現はチャンクを結合する（チャンキングする）ことによって可能となる。

一言でいえば、表現英文法はチャンクの作り方とチャンキングの仕方に関する規則である（拙著『表現英文法 増補改訂版』（2015、コスモピア）を参照されたい）。名詞の文法は前置修飾と後置修飾を使って、a woman in the train、a woman holding a smartphone in front of her face などといった名詞チャンクを作ることができる。また、動詞の文法には助動詞、テンス・アスペクト（例.現在進行形、過去完了形）、態、動詞の共演情報（例.動詞＋名詞＋形容詞）が動詞の文法として関係し、(she) will ask her husband to clean the room とか(she) will be having a big party といった動詞チャンクを作ることができる。副詞の文法を使って、「様態」情報などを加え、(have a big party) in a way that pleases the guests（お客を喜ばせるようなやり方で）と副詞チャンクを作ることができる。

「表現英文法とは、チャンクとチャンキングの仕方に関する規則である」と定義すれば、文法が直接、表現活動と結びついてくるはずである。こうした前提の上で文法力を鍛えるにはどうすればよいかという教育問題に提言を行いたい。

チャンキングの中で文法力を鍛える

チャンクを作り、チャンキングによってチャンクを繋ぐことで表現は生まれる。これがまさに「文法を使う」ということである。以下では、「話すことで文法力を鍛える」というこの記事の主題に対して、「チャンキング学習法」と「テンプレート学習法」の2つを提案したい。

チャンキング学習法

筆者が提唱するチャンキング学習法とは、動詞コロケーションのリストをチャンクの最小単位として、それにチャンクを加えていく方法である。その際の鍵となるのは「選択可能性」である。以下は、筆者が中学2年生を対象に「to不定詞」の使い方について指導する際に用いた素材である。まず、to不定詞のtoに注目させ、次のような板書をする。

前置詞 to と不定詞 to は違うが共通点もある

前置詞 to : 空間的に物や場所に向き合う

I went) (the convenience store.

不定詞 to : 時間的に行為に向き合う

to

I want) (go to the convenience store.

「時間的に行為(すること)と向き合う」ということは、「これからする何か」だと説明し、to go to Hawaii だと「これからハワイに行くこと」、to study hard だと「頑張って勉強すること」というチャンクを確認させる。そして、次のような気持ちを表すチャンクとこれから行うことのチャンクをリストで示し、生徒に自由に組み合わせさせる。

君の気持ち

I really want ぜひ…したい

I hate … 絶対にしたくない

I refuse …するのを拒否する

I'm planning …する計画だ

I've decided … ~することに決めている

これから行うこと

to go to Hawaii

to learn real English

to study very hard

to clean my room

to buy a new smartphone

to make a lot of money

to work part time

これは、最も単純な2つのチャンクを繋ぐやり方だが、ここでのポイントは、I've decided とか to make a lot of money をチャンク(意味のかたまり)として提示することである。What do you really want to do? とか What are you planning to do? という教師の質問に間髪入れず、応答できるようになることが目標である。この目標をクリアしたら、次に、to do のもう一つの力として「~するために、~することを目的に」を次のような形で示す。できれば to go to Hawaii と to learn real English のイラストがあるとよい。

(I really want) to go to Hawaii →→ to learn real English.

I really want to go to Hawaii と生徒が言えば、Why? とか「なんで?」と質問し、to learn real English というチャンクを引き出す。ここで、教師は、「to do は『これからする何か』を表

すよね。「～するため」という目的も『これからする何か』であることには違いないね」「to do の形はスゴク使い道があるね」などとコメントする。その上で、以下のような選択詞を与える。

I really want to work part time ….

I'm planning to go to Hawaii …

I've decided to study very hard ….

I really have to clean my room …..

to enter a good university

to buy a new smartphone

to please my mother

to have a relaxing time

どういう組み合わせをするかは生徒の自由にまかせる。ただし、I really want to work part time to enter a good university. というチャンキングをした生徒には、「アルバイトすると大学のAO入試なんかで評価されるかなあ？」などとコメントする。選択肢があることで、活動は authentic になり、生徒も personal な自分事として表現することができる。

チャンキング的表現を繰り返すことで、文法力の自動化を高めることができる。さらに次のような情報をチャンクとして足す作業に展開してもよい。

this summer この夏に

before I graduate from high school 高校を卒業するまでに

sometime in the future 将来のいつか

right now 今すぐに

later 後で

そうすると、[I really want] [to work part time] [this summer] [to go to Hawaii]. のような文を作り出すことができる。これがチャンキング学習法である。まず、自分のことを語るということで主語は I で始めるのがよい。もちろん、主語を he とか she に変えて表現してもよい。その場合、自分のことではないので、確信の度合いを表す表現をチャンクとして示すことができます。{It seems..., I think..., I'm not sure, but..., I'm not sure, but it looks like..., Definitely,...} などです。すると、次のような表現を作り出すことができます。

It seems she's planning to go to Hawaii this summer to have a relaxing time.

I'm not sure, but it looks like he has decided to study very hard to enter a good university.

未来表現の場合には、{I will do, I will be doing, I'm going to do, I'm planning to do, I'm scheduled to do, I intend to do, I'm doing}などをチャンクとして示し、それぞれの表現の特性を簡単に説明しておく。そして、動詞コロケーションや副詞情報などの表現リストを示すことで表現の瞬発力を高めるためのエクササイズを行う態勢が整う。

チャンキングの応用:ナビゲーター学習法

ここでいう「ナビゲーター」とはゆるやかに表現の方向性を示す言語的工夫である。テンプレートに近いが、テンプレートほど定型化したものではない。何か互いが見ることが出来る物で、相手が「何か」わからないので説明する状況では、What is this?が代表的な質問である。この質問に答えるには、次のようなナビゲーターを使うことができる。

Navigators

- これは「…」と呼ぶ This is called “…”
- それは大体[文字通り]「…」の意味だ It roughly [literally] means …
- 「…」みたいなものだ It's (just) like
- 「…」するのに使える You can use it to do/when you …/ This is used when …

一方、手元にないものを「ことば」で説明する場合がある。ここでの代表的な質問は What is it?である。例えば、What is “mochituki”?や What is “ramune”?などといった日本語概念だけでなく、What is “rain forest”?などのような概念の説明も含まれる。日本語概念を英語で説明する際のナビゲーターとしては以下がある。

Navigators

種類を述べる（上位概念で示す）：It's a kind [type] of ..

由来（言葉の由来）：It comes from…

形状を記述する

素材・構成要素について述べる

機能・目的を述べる

このすべてを使うわけではないが、例えば「ラムネ」について話をするとしよう。すると、ここでのナビゲーターを使って次のように説明することができる。

種類を述べる：“Ramune” is a type of soft drink in a bottle.

由来を述べる：“Ramune” comes from “lemonade.” Some Japanese took the two words as sounding similar.

形状を記述する：In the bottle, a small glass ball is placed at the top of the bottle.

素材・構成要素について述べる：The bottle is made from glass, or, more recently, plastic.

用途・目的を述べる：The small ball is a lid. To drink, push it hard with your thumb into the bottle.

このナビゲーターは事物を描写する際には有用である。と同時に、英語表現についていえば、a type of、come from といった熟語、be placed at、be made from という受動態表現、さらには、to drink のように to 不定詞を使うところに文法が生きている。{generally, traditionally, originally, literally, technically} といった副詞表現をナビゲーターの補強として加えれば、例えば、「緑の日」の説明で、Generally people do not know the meaning of Greenery Day. But originally it is the day people should appreciate the blessings of the nature and think about the environment. のように表現することができる。

おわりに

ここでは、チャンキング学習法の応用として、文法をチャンキングの中に入れて指導するという方法と、表現に方向性を示すナビゲーターとしてのチャンキングという考え方を示した。いずれの場合も、原則は、meaningful で、authentic で、personal な素材と活動が必須であるということである。この3つの条件を満たす方法としては、「日常の英語化」がよい。生徒の生活空間に関連づけることができるような形で英語を学ぶということである。